

Ble 60

Art & Design Center News
2025_04 | 2026_03

編集後記

- 今年のは切りのよいBle60号！過去のBleは名古屋芸術大学HPから読めますよ。ご興味のある方は是非ともご覧ください。(S.K)
- ハムスターグッズを集めているのでかわいいハムグッズあったらおしえてください◎(M.Y)
- 今年度からスタッフに加わり、振り返れば主催・協力企画展はデザイン一色の年となりました。皆さまのおかげで充実した企画をお届けできました。60号では企画関係者の言葉も紹介しています。次年度もお楽しみに。(M.K)
- 食べられるどんぐりと食べられないどんぐりを調べる日々です。他の身近な木の実も調査中…(Y.N)
- 先日アメリカのディズニーとユニバに行きました。スケジュールばんばん、足ばんばん。(J.I)

 名古屋芸術大学 Art & Design Center



02-06P

特集「つながる活字」

〈ORGAN 活版印刷室〉 直野香文
〈Re:活版〉
〈活版WEST〉

07P

ちょっと行ってきました Vol.4
～ゆとなみ社 人蔘湯(豊橋市)～

08-09P

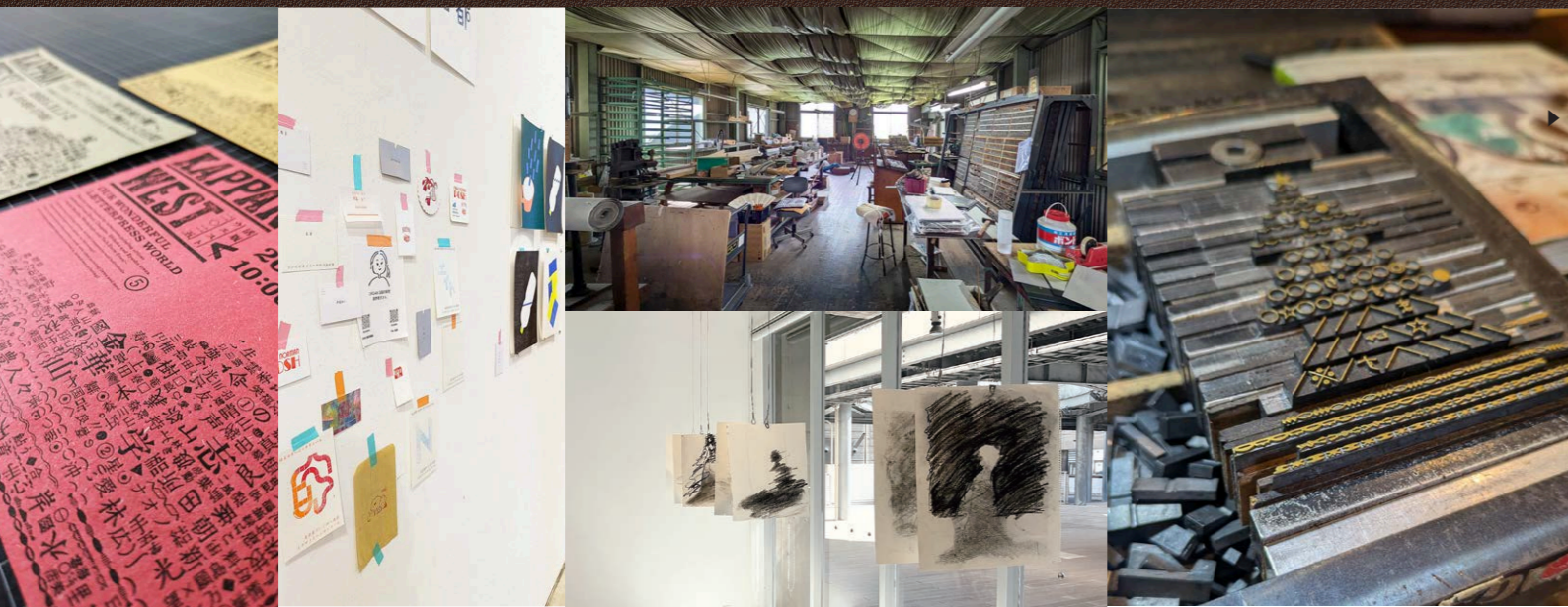
2025年度 Art & Design Center レポート
 ● Milano Salone Project 2025
 ● Feel the Form
 ● 完成しない展示会、TARI,
 ● OLD IDEAS

10P

Ble COLUMN 〈神谷思摩〉〈丹羽優香〉

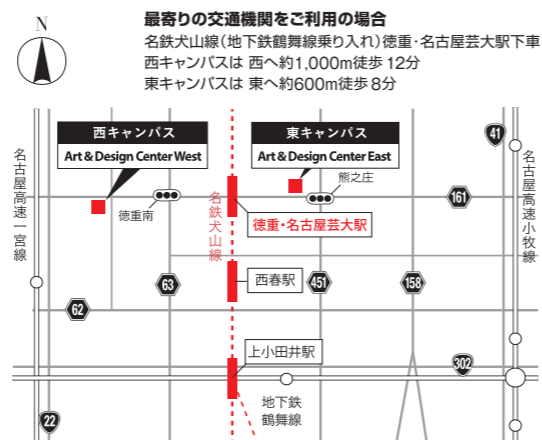
11P

芸術一話
2026年度 Art & Design Center 展覧会スケジュール



 名古屋芸術大学 Art & Design Center

Ble Vol.60 発行日 2026年2月12日
 編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
 〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568] 24-2897 FAX [0568] 48-0173
 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
 2026 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts
 デザイン/印刷 サンメッセ株式会社





特集
つながる活字

ORGAN 活版印刷室 なおの かふみ 直野 香文さん

岐阜城から、鶺鴒が行われる長良川の方面へ向かって歩いていくと、まるで別世界に迷い込んだような古い町家に、土産物屋や和菓子屋が立ち並ぶ景色が現れます。

町屋の扉奥は、まっすぐとつながる長屋づくりで、2階は写真館、奥には和傘作りの工房が一つの建物に店を構えており、その一角の6畳ほどの小さな部屋に「活版印刷室」があります。

ORGAN 活版印刷室をはじめたきっかけを教えてください

もともとは兄がORGANデザイン室というデザイン事務所を運営していて、古い道具が好きということと、デザインに活かせるかもしれないという理由で、たまたま近所の廃業される方から活版印刷の道具一式を引き取りました。はじめは、道具を譲りうけたものの使い方もわからず、義理のお姉さんが東京で活版印刷を行っている朗文堂のワークショップで使い方の基礎を勉強し、月に1件程度の依頼で制作をしていました。その後、お義姉さんがお子さんを授かって、代わりにアルバイトとして私(直野さん)が活版を一時的に引き受けたのがスタートです。

最初はアルバイトとのことですが、その後は活版一筋ですか？

いや！ここからが激動です！(笑)
私も保育士の資格を取ろうと学校に通いながらアルバイトとしてやってきたのですが、よし卒業というタイミングで、お義姉さんに二人目のお子さんができたのがわかって、兄に懇願されアルバイトの延長になりました。さらにその後、女性の起業家支援の補助金を近くの銀行さんが行っていて、やってみなよ！と勧められて、まさかの独立です。そこからもう12年が経ちました。

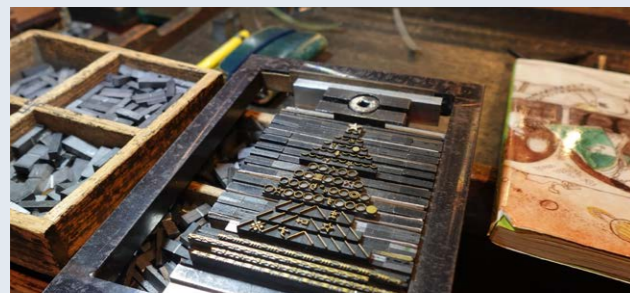
活版印刷とは？



一文字一文字、鉛(古くは木)で出来た文字が凸型に彫られた「活字」と呼ばれる道具を組み合わせた版を用い、専用インクをつけた印刷機で紙に転写を行う凸版(トッパン)印刷の一種。

ひらがな、カタカナ、漢字、飾り柄など逆さ文字にしたものが1文字に対して1本あり、文字のポイントサイズやフォントごとに異なるので、印刷には膨大な活字が必要となる。

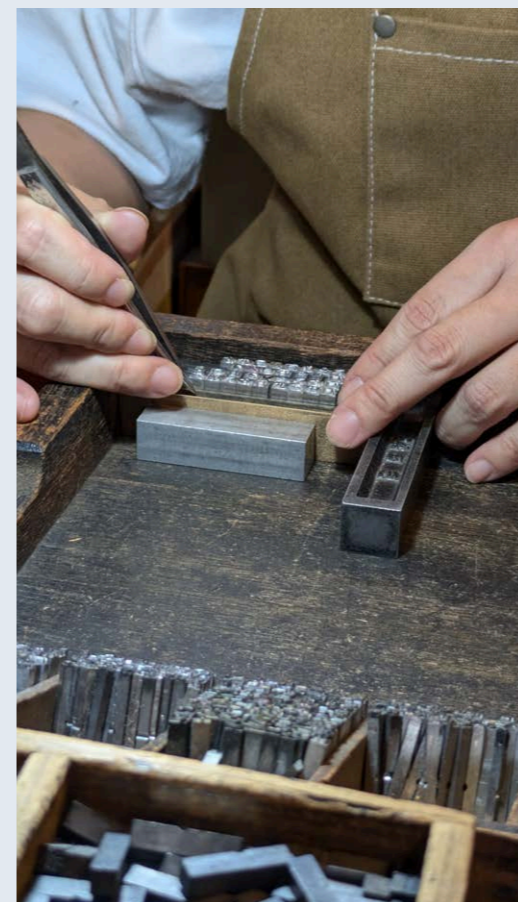
活字を順番に組み合わせ、行間や文字間も「込め物」で調整しながら一つの版を作り上げる。手刷りで行われる活版印刷はインク文字のやわらかさや、デボス、箔押しなどが特徴的。



活字組版

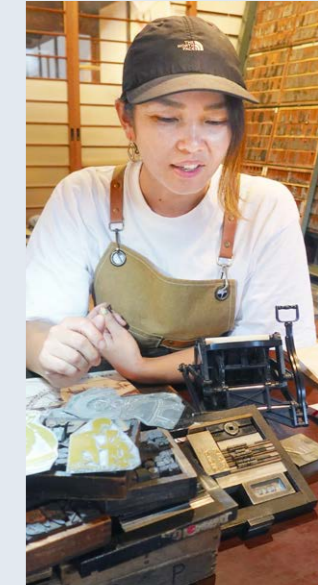


活字の「感」=「心」という文字が中に納められている



今はこの活版印刷室でどのような活動をされていますか？

多くは活版印刷による名刺などの印刷物依頼や、ここでワークショップを行っています。他には、Re:活版(P04で紹介)という廃業された活版印刷機器を次の方へ繋ぐ活動を行っています。ここにある道具もほとんどが、廃業になった印刷所から引き取らせて頂いた物で、今は職人がいなくなって製造されていない道具も多くあります。大切に仕事にも使いながら、ワークショップで多くの人にも使ってもらったり、活字として利用ができなくなってきたものは鉛の素材として業者に買い取ってもらったり、できる限り役に立つように利用しています。



今後の目標や活動予定はありますか？

今は活版を繋いでいく側になってきていると思います。ワークショップで教えているのもそうですし、大学で学生さんたちに伝えていく活動も行っています。多くの方に体験、知ってもらって活版を残していきたいです！



現代において印刷は簡単に早くできる技法へと変化を続けてきた中で、膨大な活字の中から一文字を探し文字を組んでいく活版印刷という技術は、辞書を引く行為に近い感覚ではないだろうか。文字一つずつの意味や形を改めて感じながら、ぜひ活版で刷られた印刷物を手で触れて活字を感じてもらいたい。

< information >

ORGAN 活版印刷室
岐阜市の小さな活版印刷室



Instagram :
@organkappan



HP :
https://organkappan.net/



Re: 活版

- Reduce = ゴミ発生制限
- Reuse = 再利用
- Recycle = 再生利用

Re:活版の活動とは

ORGAN活版印刷室の直野さんは、廃業する印刷会社から道具や活字を引き取り、新たな方へ繋いでいく活動を行っています。

特に近年は、70~80代の個人経営者が多く、廃業が増えていることから、直野さんの元には「道具を譲りたい」という声が多く寄せられているそうです。

この取り組みは3年前に始まり、これまでに約13件の活版道具を引き継いできたといいます。



(左)ORGAN活版印刷室 直野さん (右)工房上田 酒井さん



工房中心に鎮座する棚には、約15万本の活字が納められておりその中から必要な言葉を拾い、組み立ててすべて手作業で印刷されています。

Re:活版の活動に立ち会いました

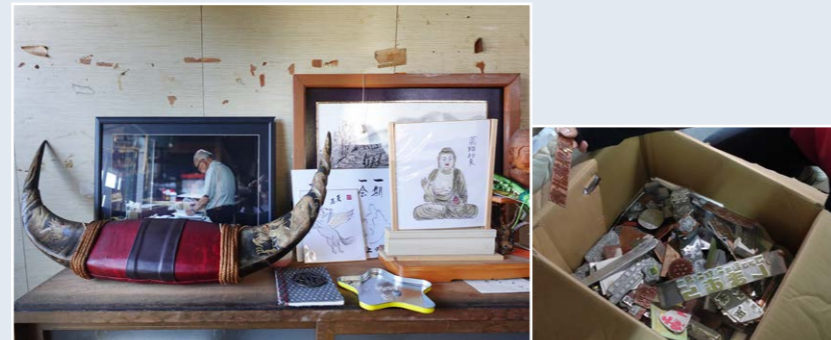
今回の引き取り先は、直野さんのご友人で、岐阜県内で活版箔押し工房を営んでいる酒井理絵さんの「工房上田」を訪ねました。



この工房は、創業者の上田清四さんが長年、手作業で製本の箔押し印刷を行ってきた印刷所です。

先代が亡くなった後、その技術と工房を酒井さんがすべて引き継ぎ、整理を進めていく過程で、道具の一部を学生たちのために名古屋芸術大学へ譲っていただけになりました。

工房内の入り口には仕事に勤しむ先代写真が飾られ、趣味の立派な木のオブジェや骨董と共に見守っています。



先代の写真

先代のもの

先代が残した数多くの物の中には、過去の印刷で使用された版や、今では職人のいない木製で作られた活字(木製活字は約8年前に最後の職人が亡くなった)など約60年の歴史が詰まっています。

酒井さんは工房を片付ける傍ら、日々過去を発見していくのが楽しいと語ります。

箔押し印刷とは？

卒業アルバムの表紙を覚えていますか？
厚い表紙に金色や銀色の文字が大きく書かれているのを思い出す方も多いのではないのでしょうか。

手でふれてみると文字がわずかな凹みと一緒に刻まれていることがわかるかと思えます。

卒業アルバム以外にも、建設会社の図面の表紙や記念品の製本などにも使われていますが、こうした用途での箔押しは、今の暮らしの中では少しずつ見かける機会が減ってきています。



箔押し印刷について語る酒井さん

引き取り作業

名古屋芸術大学の教職員と学生で、活字が詰まった箱(すだれケース)を一つずつ運びだし、歴史の積もった埃を一つずつエアで飛ばしていきます。

強い風で簡単に飛んでいってしまうほど！文字の活字は小さいながらも、箱に納められた膨大な活字は鉛ということもあり一人で長時間持っていることができないほどの重さがあります。



清掃作業

今回引き取らせて頂いた活字は名古屋芸術大学の印刷工房へ設置され、学生等の学習と制作のために役立てられています。

information

活動はInstagramをご覧ください
Re:活版



Instagram :
@re.kappan



Instagram :
@ko_bo_ueda_rie



工房上田

製本や箔押し印刷のこと、1冊からご相談ください！

HP :

<https://uedakoubou.jimdofree.com/>

活版WEST

2025年11月1日[土]ー2日[日]
みんなの森 ぎふメディアコスモス

活版WESTとは
ORGAN活版印刷室の直野さんもメンバーとして参加する「活版WEST」は、2017年にスタートした全国の活版印刷に携わる人々が集まり、展示や販売を行うイベントです。国内外の活版印刷所の出店をはじめ、活版印刷の魅力を伝える展示、ワークショップ、作品販売などが行われます。大阪から始まり、メンバーの活動拠点を中心にキャラバン形式で全国各地を巡り、今年は直野さんの地元・岐阜県にて第5回目となる活版WESTが開催されました。



岐阜県にあるORGAN活版印刷室の直野さんが手がけた金華山、岐阜城、長良川をイメージした活字組版！それを清刷りしたものをデザインに組み込んでいます。



名古屋芸術大学「名古屋芸術大学活版部」としてエントランスに作品を展示して参加しました。



会場内では、印刷の歴史や、さまざまな道具の紹介などもあわせて展示されていました。



たくさんのお店さんの商品からお気に入りのものをご購入！ポップな彩りの印刷物が揃いました！

「information」
今後の活動はInstagramをご覧ください
活版WEST

Instagram :
@kappanwest

11月と行ってました◎// vol.4
2025.9.11

人蔘湯



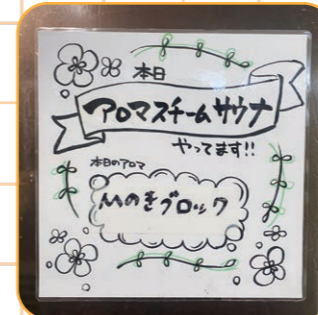
気になるタイルアート

浴室に入ると一番に壁一面のヨーロッパのアルプス山脈の様な景色が見られるモザイクアートタイルにきづけ！
男女浴室をまたいで貼られたタイルを見ながらお風呂に入り、ぼーっとするのが癒しポイント◎
浴室や脱衣所にもかわいいタイルをみつめることができる！



グッズ

名古屋芸術大学卒業生がデザインしているグッズがあり、今回取材にいかせていただき卒業生の活躍にもふれることができた。そしてオリジナルキャラクターのにじんステッカーをゲット！こちらはスタッフ作成のオリジナルのにじんキャラクターとのこと。アクリルキーホルダー・タオル・Tシャツなど気になるグッズが展開されています。



Information



人蔘湯
〒440-0882
愛知県豊橋市神明町47
14:00-24:00 / 水曜日
※臨時休業などの情報はSNSでご確認ください

人蔘湯とは

薬湯として高麗人参を入れていたことから銭湯名が「人蔘湯」となった。設備の老朽化もあり、一度廃業をしたが京都を拠点として「銭湯を日本から消さない」をモットーに銭湯の継業を専門的に行っている「ゆとなみ社」が経営をしている。おかみさんと店長の奥村さんがお迎えしてくれる人蔘湯は、小さいお子さんからお年寄り、ご近所の方から旅行で来る方などたくさんの方が癒されに来るレトロでかわいいこれからも入り続けたい素敵な銭湯です。



Instagram :
@ninjinyu2021



X :
<https://x.com/ninjinyu2021>



2025年度 Art & Design Center 協力企画展
「Milano Salone Project 2025報告展」
 2025年5月30日[金]ー6月10日[火]
 Art & Design Center West

イタリアミラノにて毎年4月に開催され、国際的な家具の見本市として知られるSalone del Mobile MILANO通称ミラノサローネ。2025年4月に教員と助手、デザイン領域学部生の3名と大学院生1名によるグループが実際に現地に訪れ作品発表を行った。展示は6日間に渡り、大学院生2年杉浦泰徳さんの研究内容に紐づいた子ども向けの家具「Kintoun Kits」(画像1参照)を発表した。とここまで簡単に書いたが、実際の現地では物を運ぶだけでも一苦勞である。国内であれば車や運送会社をお願いすればいいが、そう簡単にはいかない。もちろん飛行機に乗せるところから始まり、限りある中で最小限かつ最大限のパフォーマンスを目指した荷造りが求められる。そして現地では、基本的には公共交通機関と徒歩での移動となる。ダンボール一つ運ぶ事がこれほど大変かと思わされる。ただそれに反し、現地での体験は何ものにも代え難いものがある。海外旅行をした人なら分かると思うが、飛行機を降り、目に入る色や形の違い、聞こえる言語や音の違い、はたまた匂いまでも違う、ああ異国に

来るという事はこういう事か、と先ず衝撃を受ける。そんな衝撃的な異国の地で、憧れのデザイナーやブランドに交じり自分たちの作品を発表するという事。これは前者を払ってでも、お釣りがくるほどの体験と言える。そんな興奮冷めやらぬ学生たちの熱量をそのままに帰国後すぐに実施したのがMilano Salone Project 2025報告展である。現地では2m×4mという小空間での展示に対して、Art & Design Centerはその何倍もある展示空間となったが、作品をはじめ現地での様子を紹介した映像や記録画像などを交え、学生たちは見事に会場を埋め尽くした。もちろんたくさんの方の協力を得たことに違いないが、その物量と熱量それ自体がミラノサローネを体験し学生たちが真に持ち帰った経験なのだと感じた。現地に行き本物に出会う、そしてそこで本気の作品を発表するという事。そんな機会はそうそう無い。だからこそ、今回の企画実施にあたり協力いただいた皆さまに感謝し、この貴重すぎる体験をした学生達には必ずや今後活かしてほしいと願う。

デザイン領域 スペースデザインコース 講師 服部隼弥



インダストリアル&セラミックデザインコース
 教員によるセラミック作品展
「Feel the Form」
 2025年10月17日[金]ー10月22日[水]
 Art & Design Center West

過去4年間の卒業制作で、インダストリアル&セラミックデザインコースから5名がブライトン大学賞を受賞していますが、そのうち3名がセラミックの作品でした。このことは、ちゃんとアピールしなければ・・・というのが作品展開催のきっかけでした。

一般的にインダストリアルデザイン(以後、ID)に「セラミックのデザイン」は含まれていて、他大学などではシンプルにIDと命名されていますが、名芸では念を押すように「セラミック」を併記しています。その理由として、この地域は瀬戸、多治見、土岐、常滑、高浜など昔から窯業が盛んな特別な地域があること。また、石膏型を使って量産するセラミックデザインは、IDが基本とする量産手法を学ぶ基本的な教材として優れており、2年生必須の実技課題としていることが挙げられます。このように地域特性と技術的な特性が合致している理由から、ID

コース前任教授の和田先生が命名され、現在も受け継いでいます。

今回の展示では、IDコースに関わるセラミック系教員5名がそれぞれ異なる分野での作品を展示し、作品の幅広さや技術の凄みなどを感じてもらえたのではないかと思います。

特に青木岳文氏の作品「Vessel」は、抜け殻のような器で優くもあり、それでいて凛とした緊張感は、今回のタイトル「Feel the Form」を象徴する作品であり、その造形やCMF(色、素材、仕上げ)は、工芸とデザインの中間的な位置と捉えることもできます。IDは何かと技術面に偏りがちですが、大学での学びにおいて、いま一度、造形と美に立ち返り、インダストリアルデザインを芸術として、紐解いていく道標になればと思います。

デザイン領域 インダストリアル&セラミックデザインコース 教授 後藤規文



「完成しない展示会」「TARI,」
 2025年7月4日[金]ー7月9日[水]
 2025年9月26日[金]ー10月1日[水]
 Art & Design Center East

本年度は「完成しない展示会」「TARI,」と2つの展示を企画し、Art & Design Center Eastと関わる機会が多い日々でした。Art & Design Center Eastはホワイトキューブですが、窓が多いためギャラリー外の景色や日光も展示空間に組み込まれるのが特徴です。それは自分の作品の可能性を広げてくれました。

《太陽みたいなあなた》「完成しない展示会」では太陽光に照らされることで、フォトクロミック顔料と反応し、ビジュアルが描き出される仕組みを提案。《2025.9.3》「TARI,」では、窓側に立体的に木炭スケッチを吊るしました。窓の外の景色と作品が並んだことで生まれるコントラストによって、より魅力を引き出す手法を試みました。

今回、作家として場所を活かした作品作りの経験を得ることができたと共に反省点が残りました。それは全体的な展示設計の練度が不十分であるということです。なぜそのレイアウトなのか、キャプションはなぜその素材なのか、なぜ

紙のDMを作るのか、どのように宣伝するのか、この展示がどのように社会と結びつくのか、なぜArt & Design Center Eastなのか。

2つの展示を通して、自分はそれら全てを含め設計することまでを「グラフィックデザインの仕事」として考えたいと思いました。展示会を訪れる人々の目的は「作品」ですが、それを取り巻く空間、環境や媒体全てが「展示会」を形成しています。展示会は鑑賞者と作家をつなぐ「インターフェース」のような存在です。その役割自体は昔から変わらないものの、具体的に形成する環境や媒体は変化・進化します。

今だからこそ、展示会を形成する媒体をフラットな目線で見つめることで、より良いものにできると思いました。この2つの展示は、視野を広く持ち先入観なく向き合う視点の大切さを考えるきっかけになりました。

デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース3年 三枝瑛翔



2025年度 Art & Design Center 企画展
「OLD IDEAS」-目の発見、手の対話、デザインのめばえ-
 2025年10月27日[月]ー11月16日[日]
 Art & Design Center West & East

10月末から11月の澄んだ空気の中、特別客員教授・原田祐馬氏(UMA / design farm)による企画展「OLD IDEAS」が、本学 Art & Design Center West・Eastの2会場で開催された。原田氏がこれまで本学で行ってきた教育的実践とその思考の広がりを可視化する展覧会である。

西キャンパスのギャラリーでは、原田氏の思考を軸に教員・学生が関わった「デザインの素」を探る実験の軌跡が展示された。素材、記録、試行錯誤のプロセスが空間に点在し、デザインが形になる以前の「思考のはじまり」を追体験できる場となっていた。

東キャンパスのギャラリーでは、原田氏が夏期に1年生へ実施したワークショップを起点に、学生たちがその体験を「子どもが参加できる展示」として再構成した。日常の中の「当たり前」を見直すことで生まれた小さな発見を、触れたり動かしたりしながら共有できる空間である。

ワークショップは、見過ごしがちな景色や手触り、音、においなどを改めて観察することから始まった。学生たちは自分の身体を通して環境と向き合い、微細な違和感やひらめきを丁寧に拾い上げていった。こうした感覚的な探りは、



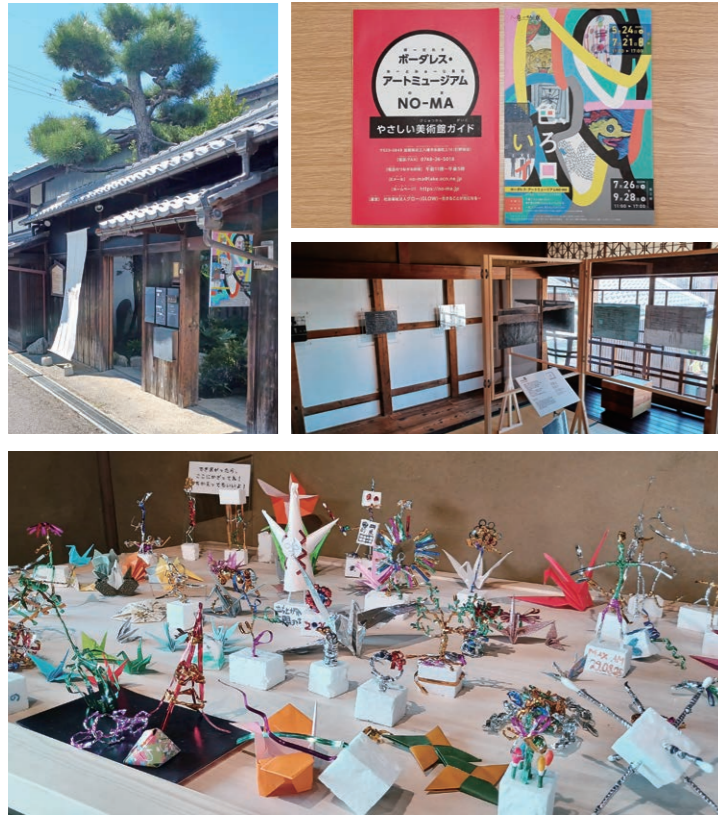
直感のように見えつつも、デザインを考えるための「感覚の土壌」として確かに機能していた。

さらに、子どもたちの自由な発想に触れた経験は、学生にとって大きな学びとなった。子どもの頃は既製品を遊び道具に変える柔軟さを誰もが持っているが、大人になるほどその感覚は失われていく。体験ができる展示を考える過程や会期中のワークショップで、学生たちはその「自由に遊ぶ感覚」を思い出し、再び手を動かして実践していた。

展示には、素材との対話から生まれた視点や、空間を使ったコミュニケーション、感覚を捉え直す試みなど、多様な解釈が現れていた。

「OLD IDEAS」は、デザインは新しさを追う前に、まず世界を丁寧に見つめなおすことから始まるという原田氏のメッセージを示す展覧会である。日常の小さな気づきが創造へつながることを体感させる、教育と創造が交差する場となった。

デザイン領域 デザインファンデーション 講師 田中翔貴



『誰もが楽しめるアート』 神谷 思摩

何気なく手紙を開封するとき、何を思いますか？その封筒の質感に違いを感じたことはありませんか。目の見えない方は、その手触りの違いで、重要な手紙とそうでない手紙とを判断しているそうです。音声コードユニフォイス（紙の端に、穴あけパンチ半円のくぼみがあり、その半円近くの音声コードで情報を得るものです。）もご存知の方もお見えだと思います。日常から誰もが障害なく過ごせる工夫、素敵ですね。

今回、積極的に「だれもが訪れやすい美術館」にしようと取り組んでいる、『ポーダレス・アートミュージアムNO-MA』さんにおじゃましました。

『NO-MA』さんは、滋賀県近江八幡の町屋「野間邸」をリノベーションして作られました。昭和初期の面影を残した町並みを歩くと、『NO-MA』さんに到着。ふっと力が抜けるような、ぬくもりを感じる館内に入ると、バリアフリー化はもちろんのこと、触図と点訳、テキストデータQR、英語での解説、やさしい文章のキャプションなどさまざまな工夫がなされています。

今回は、『色、いろ、イロ展』(第11期2025年7月26日(土)-9月28日(日))が開催されていました。障害のある方の一途な思いが凝縮された作品が、展示空間にほどよく飾られています。こんな風にひとつのことを思いつけられたら人生素敵だなと感じながら2階に上ると、『キラキラ、ピカピカで「好き!」を作ろう!』というワークショップを行っていました。来客者の作りあげたアイデア作品が素晴らしいかったです。

『NO-MA』さんでは、障害のある人々による造形表現や現代アートなど、様々な表現を分け隔てなく紹介されているそうです。来館者も、福祉関係の方だけでなく、観光客の方もGoogleマップで調べておみえになるそうですよ。

レトロな近江八幡観光と共に、ふらっと温かみを感じる空間へ訪れてはいかがでしょうか。

『あいち朝日遺跡ミュージアムへ』 丹羽 優香

弥生時代に栄えた東海地方最大級の集落であった朝日遺跡。その魅力を発信しているのが私の地元、愛知県清須市に建つ「あいち朝日遺跡ミュージアム」です。2020年の設立当初から気になってはいたもののなかなか機会がなく…この度念願叶って訪れることができました。

朝日遺跡はこのミュージアムが設立される前から地元では有名で、私の父は幼い頃にこの辺りで貝殻を見つけたこともあるそうです。ここではそんな身近な遺跡の歴史を非常にわかりやすく、精巧なジオラマや映像も交えて学ぶことができます。

展示されている出土品は土器、農具、狩猟道具、装飾品など多岐に渡り、本物の人骨を見ることもできました。環境や風景は当然変わっていますが、実際に出土されたものを見ると確かにこの地に人々の暮らしがあったのだと実感できます。もしかしたら、自分の祖先もこの道具や土器を使っていたのかも…と思うとより親近感が湧きました。

ミュージアムの魅力は館内だけではなく、外にも続きます。精巧に再現された竪穴住居や高床倉庫、弥生時代のものをイメージして復元された水田もあり、季節ごとに様々な体験もできるそうです。また園内には6種類のどんぐりの木があり、童心を思い出しながら拾いました。その中でもスダジイという種類は食べることができるようで、少し持ち帰り実食したところほんのり甘くて素朴な美味しさを楽しめました。館内で配布していた資料によれば、どんぐりは弥生時代の人々にとっても大切な食料だったとか。遠い昔この地に暮らしていた人々も、今の私と同じように味わっていたのかなと思いを馳せた一日でした。



芸術一話

ART WORDS FROM THE ART WORDS

35

小さな声と、これからの呼吸

私たち生活者にとってデザインとはどのようなものなのでしょうか。機能を優位的に伝える刺激の強いものもありますが、実は、多くのデザインは控えめで、主張しすぎることなく、空気のように生活に溶け込みながら、確かに私たちを支えてくれています。

周りを見渡してみるとそれがよくわかります。例えば、あなたの目の前にあるペットボトル。あまりにも当たり前すぎて、それがデザインされたものであるということさえ私たちは忘れていました。ただ、ボトルの形状をつくるだけでなく、それがリサイクルされ、もう一度、私たちの手元に道具として戻ってくる循環までも含めた仕組みそのものも、デザインの領域なのです。ペンもスプーンもカレンダーでさえも大きな声を出さず、小さな声で私たちの生活を支えています。では、スマートフォンを手にとってみると、そこはどのような世界が広がっているのでしょうか。とても便利で私たちの生活をよりよくする道具として生まれました。しかし、一步、踏み込むとプッシュで情報が届き、日々の生活にノックを繰り返してきます。「これを買いませんか、今日は寒いですよ、明日は授業です。」など、頼んだことから頼んでいないことまで教えてくれるので、つい手を伸ばしてしまいます。さらに、これからはAIが生活を覆い、自分と自分以外のなにかもって無意識的な小さな声と暮らしていくことになるでしょう。

「空気のように」と前段に書きましたが、実はここに、これから生きるデザイナーにヒントがあると考えています。当たり前のように呼吸し、暮らす私たちは、空気を吸うことに対しては能動的ですが、吐く行為に対しては、実は無意識になりがちです。私たちは道具や情報を無意識のうちに吸収し続け、自分の言葉や感情、身体感覚として吐き出す機会が、少なくなっているのかもしれない。小さな声として存在する「空気」も実は同じことが言えるはず。道具や情報も自然と吸い込んでいる自分がいて、吐き出す方法を知らない、吐き出せていないことで、どんどんと頭も心も窮屈になっていきます。ですので、人がどのようにしてテクノロジーと付き合いながら優しく生きられるよう、デザイナーは、この「空気」の吐き出し方をどうデザインするのかを考える必要があります。難しい課題ではありますが、身体を通していく情報を呼吸と捉え、そのものを吐き出すことに向き合う。呼吸するように情報と向き合い、やがて自分のかたちで世界に応答していく。そのような営みこそが、これからの生活を支えるデザインなのだと思います。



筆者が尊敬するジャンフランコ・カヴァリア氏のスタジオ



Art & Design Center West
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼55番地 B棟1階

2026 04 - 2027 03
EXHIBITION SCHEDULE

開館 12:15-18:00 / 木・日曜休館
展示会によって変更になる場合があります。
入場無料 どなたでもご覧いただけます。
スケジュール、タイトルは変更になる場合があります。



Art & Design Center East
〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地 6号館1階

- 4/ 1 図 → 4/15 図 デザイン領域レビュー選抜展
- 4/17 図 → 4/22 図 アークリ博覧会2026
- 5/ 5 図 → 5/26 図 名古屋芸術大学 Art & Design Center 協力企画展 林規章 巡回展(仮)
- 5/29 図 → 6/ 3 図 スギナ日本画展/境界-20歳の狭間-/それぞれの星
- 6/ 9 図 → 6/22 図 名古屋芸術大学 Art & Design Center 企画展 ちいさな国際交流展 × 古本市(仮)
- 6/26 図 → 7/ 1 図 プレ卒業展
- 7/ 3 図 → 7/ 8 図 2026年度 前期交換留学生作品展/ コミュニケーションデザイン&アート演習展示
- 7/10 図 → 7/15 図 CONNEXT 2026 陶ガラス教育機関講評交流展
- 7/17 図 → 7/22 図 素材展 テキスタイルデザインコース前期制作
- 7/24 図 → 7/29 図 素材展 メタル&ジュエリーデザインコース&工芸コース(メタル) 前期制作展
- 9/18 図 → 9/23 図 名古屋芸術大学日本画展(仮)/擬人化展/漫画原画展2(仮)/ トコモソ二人展(仮)
- 9/25 図 → 9/30 図 大学院同時代表現研究科 松岡・中田・岡川ゼミ/ 万物可愛化計画/二人展(仮)
- 10/ 2 図 → 10/ 7 図 SD展2026 くうねるところにすむところ
- 10/ 9 図 → 10/14 図 日本画三年コース展
- 10/16 図 → 10/21 図 助手展2026
- 10/23 図 → 11/18 図 名古屋芸術大学 Art & Design Center 主催企画展 『マジまどコイで』〜日常を楽しむ方法〜 (仮)
- 11/20 図 → 11/25 図 MCDデパートメント
- 11/27 図 → 12/ 2 図 NMDコース展
- 12/ 4 図 → 12/ 9 図 洋画コース2・3年生選抜展覧会2026
- 12/11 図 → 12/16 図 工芸展(仮)
- 12/18 図 → 12/23 図 書道アート展14(仮)/2026年度 後期交換留学生作品展
- 1/ 8 図 → 1/13 図 CAP展(仮)/2026年度 芸術教養領域レビュー3/新博物誌 2026(仮)

- 4/ 1 図 → 4/15 図 2026年度 芸術教養領域レビュー選抜展
- 4/17 図 → 4/22 図 変身展
- 5/ 8 図 → 5/13 図 展示展
- 5/15 図 → 5/20 図 終わりの始まり
- 5/29 図 → 6/ 3 図 滑稽(仮)
- 6/12 図 → 6/17 図 あみだくじ
- 6/19 図 → 7/ 1 図 愛知県 × 名古屋芸術大学連携事業 あいちアール・ブリュット作品展
- 7/ 3 図 → 7/ 8 図 素材と音に関する展示(仮)
- 7/10 図 → 7/15 図 こども × Well-being × art 展示会 in summer(仮)
- 7/17 図 → 7/22 図 こどもかく展(仮)
- 7/24 図 → 7/29 図 2026年度 芸術教養領域レビュー1・2合同展
- 9/18 図 → 9/23 図 写真演習成果展(仮)
- 9/25 図 → 9/30 図 かみつきたい(仮)
- 10/16 図 → 10/21 図 助手展2026
- 10/23 図 → 11/18 図 名古屋芸術大学 Art & Design Center 主催企画展 『マジまどコイで』〜日常を楽しむ方法〜 (仮)
- 11/20 図 → 11/25 図 こども × Well-being × art 展示会
- 12/ 4 図 → 12/ 9 図 子ども美術・造形コース レビュー展(仮)
- 12/11 図 → 12/16 図 書道アート展14(仮)
- 1/ 8 図 → 1/13 図 留学生別科作品展
- 2月中旬 メダル展(仮)

@adc.nua



最新の展示会スケジュールは
Instagramをご覧ください